

はじめに

このテキストは、一般入試にせよ、推薦・AO入試にせよ、大学・短大に合格するために必要な「小論文」を書く力を修得することを目標に作成されています。小論文問題で求められる記述力は、体験に基づいて感想や想いを個性的に書く作文とは違い、客観的な事実に基づいて自分の意見を論理的に、かつ説得力のある内容で書くことです。そのためには、基本を忠実に守りながら、与えられたテーマを自分なりに考え、適切な用語を使い、筋道を立てたわかりやすい文章で実際に書く練習を繰り返し積むことが大切です。

このテキストでは、近年の小論文問題に則して、実際にどのように書けばよいのかを基本から入試実践レベルまで順を追って説明してあります。さらに、さまざまな設問の形式ごとに、その説明に従って自分自身で考え、かつ実際に原稿用紙に書くという作業を繰り返し行いますので、記述力を向上させることを可能にしています。

また、この学習を通して、さまざまな社会問題について自分の意見・考えをもつことが自然と身につきますので、将来にわたって大いに役に立つものと確信しています。

・テキストの構成

「導入編」「基礎編」「入試実践編」「志望理由書の書き方編」「挑戦課題編」の5部で構成されています。

「導入編」5講座 「基礎編」10講座 「入試実践編」9講座

各講座の最初に「学習のねらい」が明示されています。それを目標に学習を進めます。各講座の最後には、指示に従って自分で実際に書く「添削課題」が用意されています。

「志望理由書の書き方編」1講座

AO入試などで求められる志望理由書の書き方を解説します。**添削課題**で実際に志望理由書を書きます。

「挑戦課題編」8講座

小論文の演習です。1〜7講座はある程度長い文章を読んで取り組む小論文が**添削課題**となっています。8講座はテーマ型小論文の**添削課題**を3題取り上げています。

すべての講座に**添削課題**がついています。実際に自分自身で原稿用紙に書くことで記述力を養成します。

※**添削課題**は全て添削サービス(有料)に対応しています。

導入編

……小論文の基本的な書き方を確認します。

基礎編

……いろいろなパターンの小論文問題への対応のしかたを具体的に学びます。

入試実践編

……過去の小論文を取り上げ、実際にどう書けば合格答案になるのかを知り、実践的な力を養います。

志望理由書の書き方編

……志望理由書の基本的な書き方を確認します。

挑戦課題編

……さまざまなテーマで実際に小論文を書きます。

・添削サービスについて

添削課題のアイコンがついている問題は添削サービス(有料)が受けられます。詳しくはURL：<http://ckt-hanbaic.co.jp/tensakukouza-guide/>よりご確認ください。左のQRコードからもご確認いただけます。

※お申込みは塾・教室単位となります。個人でのお申し込みは受け付けておりません。



もくじ

第1部 導入編

- ① 小論文の書き方の基礎 ————— 4
小論文で求められている能力を把握する
小論文の基礎的な書き方を把握する
- ② わかりやすく読みやすい文章を書く ————— 8
小論文の頻出テーマを確認する
わかりやすく、読みやすい文章を書くポイントを把握する
記号や数字の使い方・書き方を理解する
- ③ 段落構成を考えて答案をつくる ————— 12
文章を作成する手順を学ぶ
制限字数に合わせた段落構成のしかたを把握する
頭括型・尾括型・双括型について理解する
- ④ 出題の意図をとらえて答案をつくる ————— 16
出題意図のとらえ方を学ぶ
考え方の基礎を把握する
論理的な考え方を学ぶ
- ⑤ 答案構成メモをつくる ————— 20
ブレインストーミングを用いて答案構成メモをつくる
原稿用紙の使い方を確認する

第2部 基礎編

- ① 賛成・反対を問う問題を書く ————— 24
賛否を問う問題の書き方のパターンを把握する
「意見↓反論↓再反論」のパターンを身につける
- ② 「～(理由)～」型の出題を書く ————— 28
「二行問題」の書き方のパターンを把握する
題材を選択・限定して答案を書く
- ③ 「～と…」型の出題を書く ————— 32
「～と…」型の書き方のパターンを把握する
二つのキーワードがどう関連するかを考える
- ④ コメント型出題を書く ————— 36
コメント型出題を書くパターンを把握する
コメントから出題者の問題意識を読み取る
出題者の問題意識を踏まえた答案を作成する
- ⑤ キーワードを使って書く ————— 40
キーワードを使った問題の書き方を把握する
キーワード相互の関連を把握する
- ⑥ 複数の課題文を読んで書く ————— 44
複数の課題文を読んで書くパターンを学習する
二つの課題文の関係を読み取る
二つの課題文の関係から、解答の方向性を導き出す

7 課題文を読んで要約・論述する問題を書く 48

第4部 志望理由書の書き方編

課題文の主張を読み解く方法を学習する
要約の方法を学習する

1 志望理由書書き方講座 104

8 要約と自由論述の問題を書く 54

第5部 挑戦課題編

課題文を要約し、自由に論述するパターンを学習する
要約を踏まえた論述のしかたを学習する

1 義務教育について 106

9 統計資料を読んで書く 58

「表」や「グラフ」の数値の読み方を把握する
「表」や「グラフ」の解釈のしかたを把握する

2 「扉」の大切さ 108

10 抽象的な課題を書く 64

抽象的な課題の書き方を把握する
抽象的なことを具体的に書くテクニックを身につける

3 真実を見つけるため 110

第3部 入試実践編

1 グローバリゼーションと異文化理解 68

2 まちづくりと地域振興 72

3 科学研究と効率性 76

4 男女共同参画社会 80

5 弱くて、かっこ悪い自分へ 84

6 翻訳と辞書とインターネット 88

7 労働力人口の推移 92

8 高校生に覚醒剤を使用する自由はあるか 96

9 私のアイデンティティとは何か 100

4 科学者とはどうあるべきか 112

赤ちゃんポスト
日本人の国民性

5 優しい関係 114

6 現代人と土との関わり 116

7 日本の福祉には何が必要か 118

8 テーマ型小論文 120

9 高校生活で得たこと 120

第1部 導入編

① 小論文の書き方の基礎

●この課のねらい●

- 小論文で求められている能力を把握する
- 小論文の基礎的な書き方を把握する

① 小論文では、何が求められているのか

はじめに、小論文試験とはどんな科目なのかを説明しておきましょう。小論文で試されているのは、制限時間内に、(1)問題文を読み取り、(2)問題に対して論理的に考えて、自分の意見を確立し、(3)それを文章で伝える、という能力です。

(1) 問題文を読み取る能力

まず、問題文を読み取る段階では、その問題文が、何を投げかけているのかを理解する能力が試されます。また、そのうえで、問われている内容に合致した適切な題材を選択する能力が必要になります。小論文のテーマは、多くは、現代の社会的な問題ですから、適切な題材を選択するためには、現代社会のさまざまなできごとに関心をもっていることが必要になります。

(2) 問題に対して論理的に考え、自分の意見を確立する能力

これは、一言でいえば「考える力」です。ここで大切なのは、「どんな」意見を考えたかではなくて、「どのようにして」考えたかです。先にも述べたように、小論文のテーマは社会的な問題ですから、「絶対にこれが正しい」という結論はありません。したがって、結論よりも、そこに至るまでのプロセスのほうが重視されるのです。考え方の筋道が立っているか、意見と理由

が対応しているかが重要なポイントとなります。

(3) 自分の意見を文章で伝える能力

三つめに、「書く力」です。小論文では、自分の意見を、答案用紙に書くことなくはありません。評価されるのは、答案用紙に書かれた答案です。ですから、自分の意見を、なぜそのように考えるのかを含めて、読み手に伝える能力が求められます。

そのためには、自分がなぜそう考えるのかを、わかりやすく伝えなければなりません。読み手が「確かにそうだ」と納得できるのに十分な説明を制限字数のなかでまとめる能力が求められます。「うまく言えないんだけど」とか「なんとなく」という言い訳が通用しないのが小論文です。それだけ、自分の意見を明確に書くことが求められます。

② 小論文の書き方の基礎

では、以上のことを踏まえて、小論文の書き方の基礎について、いくつかのポイントを挙げながら、説明しておきましょう。

ポイント1

小論文とは「意見文」である

はじめに、小論文は「意見文」であることを、心に刻み込んでください。私たちが読む文章には、説明文、記録文、通信文、感想文、さらには小説、

詩、随筆などさまざまなものがあります。その中で、小論文は、自分の意見を相手に伝えるための「意見文」と呼ばれるジャンルに属しています。このことを意識していないために、求められているものとは異なった文章を書いてしまう例も、ずいぶん多くみられます。

ポイント2

基本パターンは「意見＋理由」

小論文は意見文ですから、意見を述べるときの基本的なパターンを考えてみましょう。

すぐにわかると思いますが、自分の意見を述べるためには、意見のほかに必ず理由が必要です。これは、会話でも文章でも同じことです。そうでないと、なぜそのように考えるのかが読み手に伝わらないからです。

したがって、小論文の基本構造は「意見＋理由」となります。この二つがきちんとしていれば、最低限、小論文としての形となるわけです。

たとえば、サマータイムの導入の是非について述べた、次の二つの文章を比べてみてください。

私は、サマータイムの導入に賛成である。

私は、サマータイムの導入に賛成である。なぜなら、サマータイムを導入したほうが、時間を有効に使えるからだ。

初めのものは、意見だけの文、二つめは、理由を添えた文です。当然のことですが、理由を添えた文のほうが説得力があります。しかし、これでもまだ十分ではありません。「サマータイムを導入したほうが、時間を有効に使

える」というけれど、読み手には、なぜそのようにいえるのかが伝わらないからです。

ポイント3

「意見＋理由＋説明」の三点セットで書く

そこで、「サマータイムを導入したほうが、時間を有効に使える」ということの、理由を書かなくてはなりません。この部分を、「説明」といいます。ここでは、意見の根拠が「まちがっていませんよ」ということを、「論証」するわけです。たとえば、次のようにしてみます。

私は、サマータイムの導入に賛成である。なぜなら、サマータイムを導入したほうが、時間を有効に使えるからだ。たとえば、サマータイムによって時間を一時間先に進めれば、日没は現在よりも一時間遅くなる。すると、日の高いうちに仕事が終わって、終業から日没までの時間を仕事以外の家族とのふれあいや地域の活動にあてることができる。

こうすれば、初めて読んだ人にも、なぜ、サマータイムを導入したほうが時間を有効に使えるのかがわかりますね。

サマータイムは、夏の一定期間に、標準時を早める制度です。たとえば、一時間早まれば、通常の一二時（太陽が真南に来る時間）は、サマータイムの二三時になります。終業時刻の午後五時は、通常の午後四時の明るさです。日没までにも時間がありません。

なるほど、いわれてみればそのとおりだとわかります。でも、読み手は、これだけで納得できるでしょうか。「たしかに理屈ではそうなるけれど、本当にそんなにうまくいくのか」との疑問もわいてきます。

ポイント4

「例示」で説得力を増す

この疑問に対しては、「本当にうまくいっていますよ」と答えればよいわけです。つまり、具体例を出して証明すればよいのです。それが、「例示」といわれるものです。前の文章に例示を付け加えてみます。

私は、サマータイムの導入に賛成である。なぜなら、サマータイムを導入したほうが、時間を有効に使えるからだ。たとえば、サマータイムによって時間を一時間先に進めれば、日没は現在よりも一時間遅くなる。すると、日の高いうちに仕事が終わって、終業から日没までの時間を仕事以外の家族とのふれあいや地域の活動にあてることができる。実際、ニュージーランドでは、サマータイムを利用しているボランティア活動や地域活動が活発に行われている。

どうでしょうか。「私は、サマータイムの導入に賛成である。」という一文から出発して、ずいぶんと小論文らしくなってきましたね。具体例が盛り込まれて、説得力も増しています。

ポイント5

「例示」にはウソは禁物

ここで、一つだけ気をつけなければならないことがあります。それは、「事実誤認」です。具体例は、それが事実であることによって価値をもつのですから、あやふやな記憶にたよって「ウソ」を書いてしまわないように注意しましょう。この「例示」の部分を書くためにも、ふだんから、社会のできご

とに目配りしておくことが大切です。

このようにいうと、「結局、小論文って知識なのか」といわれそうです。たしかに、知識があればそれにこしたことはありません。しかし、知っている知識を羅列するだけでは、小論文になりませんね。知識をもとにして考え方を組み立てることが大切です。

ポイント6

理由は二つ以上挙げる

ここまで、「意見＋理由＋説明＋例示」の四点セットを使つての書き方を説明してきました。では、これで十分かといえば、まだ十分ではありません。理由が一つしかないのでは、すぐに反対派に論破されてしまいます。また、読み手を説得するにも、これだけではもの足りません。そこで、第二、第三の理由を付け加えていくことが必要になってきます。

たとえば、サマータイムについて賛成する理由には、余暇時間の有効活用のほかに、省エネルギーに役立つ、防犯上の効果がある、なども挙げられます。第一の理由と同様に「意見＋理由＋説明＋例示」の四点セットで、文章化してみましょう。

私は、サマータイムの導入に賛成である。なぜなら、サマータイムは、省エネルギーに役立つからだ。サマータイムによって時間を一時間先に進めれば、朝涼しいうちに仕事が始まり、夕方は日の高いうちに仕事が終わる。そうすれば、オフィスで冷房を入れる時間も、電灯をつける時間も短くなる。また、家庭での照明点灯時間も短くなる。政府の試算でも、同様の結果が報告されている。

私は、サマータイムの導入に賛成である。なぜなら、サマータイムには防犯上の効果があると考えるからだ。サマータイムによって終業時刻が早まれば、明るいうちに帰宅することができ、帰宅途中にひったくりにあうなどといったことも減少するであろう。また、夕方の帰宅時の交通事故も減少するであろう。

ポイント7

段落をまとめて文章をつくる

さて、ここまで書けたら三つの理由を述べた文章を、一つの文章にまとめてみましょう。

そのためには、三つの文章の中の、重複する部分を初めにもつてくるとよいでしょう。そして、理由は、「第一に：」「第二に：」「第三に：」とするか、「まず：」「次に：」「終わりに：」として、区別をするとよいでしょう。

私は、サマータイムの導入に賛成である。

その理由は、次の三つである。

第一に、サマータイムを導入したほうが、時間を有効に使えるからだ。たとえば、サマータイムによって時間を一時間先に進めれば、日没は現在よりも一時間遅くなる。すると、日の高いうちに仕事が終わって、終業から日没までの時間を仕事以外の家族とのふれあいや地域の活動にあてることができる。実際、ニュージーランドでは、サマータイムを利用してのボランティア活動や地域活動が活発に行われている。

第二に、サマータイムは、省エネルギーに役立つからだ。サマータイムによって時間を一時間先に進めれば、朝涼しいうちに仕事が始まり、

夕方は日の高いうちに仕事が終わる。そうすれば、オフィスで冷房を入れる時間も、電灯をつける時間も短くなる。また、家庭での照明点灯時間も短くなる。政府の試算でも、同様の結果が報告されている。

第三に、サマータイムには防犯上の効果があると考えるからだ。サマータイムによって終業時刻が早まれば、明るいうちに帰宅することができ、帰宅途中にひったくりにあうなどといったことも減少するであろう。また、夕方の帰宅時の交通事故も減少するであろう。

どうでしょうか。文章としては多少ぎこちないですが、きちんと一つの意見を主張する意見文になっていますね。最初の一文から、順を追って書いてきて、約五〇〇字の意見文になりました。最初から五〇〇字の文章を書こうとしても難しいものですが、このように、一つひとつの部分を組み合わせて一つの段落をつくり、さらにいくつかの段落を組み合わせていけば、まとまった形の小論文になっていきます。

「ここまで書いても、それで読み手が納得してくれるか心配だ」と思うかもしれませんが。しかし、小論文で問われているのは、自分の意見を理路整然と述べる能力です。賛成するかどうかにかかわらず、一理あると思わせればよいのです。ですから、このように順を追って書けば、自分の意見はどうあれ、あなたの意見はいちおう筋の通ったものとして認められるはずです。「小論文は結論よりもプロセスが大事」といわれるのは、このためです。

添削課題

1—①

家庭から出るゴミの収集を有料にすることについて、賛成か反対かを明確にして、あなたの意見を述べなさい。(四〇〇字以内)

第1部 導入編

④ 出題の意図をとらえて答案をつくる

●この課のねらい●

- 出題意図のとらえ方を学ぶ
- 考え方の基礎を把握する
- 論理的な考え方を学ぶ

第三課までは、主として、文章を書く際の一般的な話をしてきました。この課では、とくに「小論文」という種類の文章を書く際の注意を述べていくことにします。

① 出題意図をつかむ

小論文は、小説や随筆、あるいは手紙や日記などとは違って、出題者が特定の課題を指定して、それについて書き手が解答するものです。したがって、小論文では、なによりもまず、解答が出題者の出題意図に合致しているか否かが問題になります。書き手は、この出題意図をきちんと把握したうえで、それに沿った解答を書くことが必要です。

では、どうしたら出題の意図をつかめるのでしょうか。以下では、その説明をしていきます。

ポイント1

設問文を注意して読む

出題意図をつかむために最も大切なのは、当然のことですが、設問文をていねいに読むことです。設問文は、一語もおろそかにしてはいけません。たとえば、次のような設問文が示された場合、どこに気をつけるべきでしょうか。

【設問】 職場では、現在、終身雇用・年功賃金といった日本の雇用慣行が変わり、実力主義的色彩が強くなるうとしています。その中であなたがなるとして「大学教育」とはどのような意味をもっていますか。

ここで大切なのは、「あなたにとって」というところです。この課題文には、「終身雇用」「年功賃金」「日本の雇用慣行」「実力主義」「大学教育」という小論文のキーワードがちりばめられています。しかし、ここで求められているのは、実力主義の是非でも、大学教育のあり方でもありません。「実力主義的な色彩が強くなりつつある中で、これから大学に進もうとしているあなたは、大学に何を求めているのですか」ということが問われているのです。ですから、この設問では、「あなたにとって」（書き手からすれば、「自分にとって」という部分はずしてはならないのです。

ポイント2

課題文の方向性を見極める

課題文のある問題で出題意図をつかむためには、課題文が何を主張しようとしているかをつかむことが大切です。出題者は、自分の問題意識に沿った

文章を課題文として用いているからです。

たとえば、次のような新聞記事が課題文として付いていた場合、出題者は「フリーター」についてどうとらえていると考えられるでしょうか。

課題文例

新聞記事は、世論調査の数字を挙げたもので、比較的中立の立場で書かれています。しかし、「将来フリーターになるかも」という見出しからは、新入社員が抱いている漠然とした不安を感じることができます。したがって、出題者も、フリーターのもつ負の側面、とくに雇用の不安というところに視点を向けているものと考えられるのです。

このように資料の示す方向性を見極めることは、資料が文章の場合だけでなく、グラフや表である場合にも重要です。

② 出題の条件を守る

出題の意図を把握することと並んで重要なことに、出題の条件を守ることがあります。出題の条件には、制限字数のようなだれの目にも客観的にわかる条件もありますが、そのようなものばかりではありません。

ポイント1

設問文を分解して考える

「地球温暖化問題について、身近な例を挙げて、その問題点を指摘し、あなたの意見を述べなさい。」

ここには、どんな条件が含まれているでしょうか。

ここに含まれている条件とは、地球温暖化問題について、①「身近な例」を挙げること、②問題点を指摘すること、③自分の意見を述べること、の三点です。出題の条件を確認するためには、このように、設問文を分解して考えることが有効です。

「身近な例」という点では、題材を選択するときに、南極の氷の融解による水面上昇、南太平洋の島嶼国（とうしょくこく）の水没といった私たちの生活と縁遠いものを選ぶのではなく、温暖化による平均気温の上昇、夏の異常な暑さ、ヒートアイランド現象、などといった題材を選択することが期待されています。

また、先に挙げた「実力主義と大学教育」の例での、「あなたにとって」というのは、出題の意図であると同時に、出題の条件でもあります。

ポイント2

「説明しなさい」と「述べなさい」は違う

(A) 地球温暖化問題について説明しなさい。
(B) 地球温暖化問題について述べなさい。

右の二つの設問文の違いがわかるでしょうか。最後が、「説明しなさい」となっているか、「述べなさい」となっているかの違いしかありません。しかし、この違いが大事なのです。

「説明しなさい」の場合、答案に求められているのは、純粋に「説明」のみです。したがって、(A)では、地球温暖化の現状、原因、問題点、世界各国の温暖化に対する取り組みなどをまとめて説明していれば合格答案になります。これに対して、「述べなさい」と問われた場合には、自分自身の意見を述べることを求められています。したがって、「説明しなさい」で求められている現状や問題点のまとめのほかに、「どうしたらよいのか」についての自分の意見が示されていなければなりません。その部分が含まれていないと、出題の条件からはずれたものとして、採点の対象外となってしまうこともあります。

③ 帰納と演繹^{えんえき} —— ものの考え方の法則

小論文では「意見」を述べるのが求められますが、この「意見」はどうやってつくったらよいのでしょうか。この「ものの考え方の法則」には、帰納法と演繹法の二つがあります。

ポイント1

個別から法則へ —— 帰納法

帰納法というのは、いくつもの個別具体的な事実を集めて、そこに共通する法則を導き出す方法です。たとえば、私たちが何かを手にもって、その手を離すと、ものは地上に落下します。それは、いつやっても、だれがやって

も、どこでやっても、同様です。ここから、物体は上から下に落下するという法則が導かれます。

ポイント2

法則から個別へ —— 演繹法

これに対して、演繹法というのは、確立された法則に個別具体的な事例をあてはめて考え、結論を導くという方法です。たとえば、「万有引力の法則」という法則があり、いまあなたは鉛筆を手にもっているとします。法則から、鉛筆から手を離したら、鉛筆は落下するだろうという結論が導けます。

④ 三段論法 —— 演繹法の応用

ポイント1

三段論法で結論を導く

演繹法をさらに応用したものが、「三段論法」です。これは、三つの段階を経て論を進める方法で、ものの考え方の基本となるものです。三段論法では、最初に「大前提」となることを、次に「小前提」となることを挙げ、最後に二つの前提から導かれる「結論」を述べるといいます。たとえば、

- ① 生物の命は有限である。
- ② 人間は生物の一種である。
- ③ したがって、人間の命は有限である。

という論理が組み立てられます。これを、小論文試験に出題されそうなテーマに適用すると、たとえば、

- ① 個人のプライバシーなことがらについては、他者（他人・政府・法律

- など)からの干渉を受けず自分自身で決定する「自己決定権」がある。
- ② 自分の氏名は自分自身のプライベートな領域に属することがらである。
- ③ したがって、結婚をしたときに姓を変えるか変えないかは、自分で決定できるべきである。

というふうにかえることができます。こうして、選択的夫婦別姓(夫婦が同じ姓を名乗っても、違う姓を名乗ってもよい制度)を認めるべきであるという結論が導き出されます。

このように、三段論法では、大前提に小前提をあてはめることによって、必然的に結論が導かれて、論理の基本的な流れが確定します。

ポイント2

論証のポイントは「小前提」

しかし、小前提の妥当性は論証しなければなりません。選択的夫婦別姓の例でいえば、同制度が認められるべきだという結論が導かれるためには、氏名がプライベートな領域に属するということが論証されることが必要です。一方で、氏名は単に自己を表すだけでなく、他者との関係で初めて意味をもつ「社会的なもの」であるという考え方も成り立ちます。三段論法では、論証のポイントは「小前提」にあるのです。

ポイント3

結論を決めて論証する

制限時間の範囲内で結論を導き出すためには、結論を先に決めて、それに合うような理由付けをするのが効率的です。

- ① 結婚をしたときに姓を変えるか否かは、自分で決定できるべきである。

- ② なぜなら、個人のプライベートなことがらについては、他者からの干渉を受けず自分自身で決定する「自己決定権」があり、
- ③ 氏名は自分自身のプライベートな領域に属することがらだからである。この場合、まず、自分の立場を決めてしまい、それに合った大前提と小前提を、理由付けとして補強するわけです。

5 因果関係と相関関係

- ① 国語が得意な生徒は英語も得意である。
- ② Aさんは国語が得意である。
- ③ したがって、Aさんは英語が得意である。

この三段論法は妥当でしょうか。「国語が得意な生徒は英語も得意である」という言説は、しばしば耳にしますし、たしかに、教室の中を見回すと、勉強の得意な生徒は国語も英語もテストの得点が高く、不得意な生徒は両方とも得点が高いという現象が見られるかもしれません。また、国語のテストの順位と英語のテストの順位を比べてみると、そのような傾向が現れるかもしれません。しかしそれは、相関関係であって因果関係ではないのです。

因果関係とは、二つの要素が原因と結果の関係になるものです。これに対して、相関関係とは、二つの要素(国語の成績と英語の成績)の間に何らかの関係(国語のテストの順位と英語のテストの順位が比例する傾向)があるというだけで、相互が原因と結果の関係になるとは限りません。冒頭の例で結論がおかしくなってしまうのは、因果関係のないことを大前提としてしまったためなのです。大前提は、確たるものでなければなりません。

添削課題

1—④

大学生活で実現したいことを述べなさい。(四〇〇字以内)

第2部 基礎編

① 賛成・反対を問う問題を書く

●この課のねらい●

- 賛否を問う問題の書き方のパターンを把握する
- 「意見↓反論↓再反論」のパターンを身につける

例題 2—①

路上喫煙（歩きたばこ）や吸い殻のポイ捨てをした人に最高二万円の過料を課す全国初の条例、「生活環境条例」が二〇〇二年一〇月から東京都千代田区で施行されました。この条例にあなたは賛成ですか。その理由を明確にして、あなたの考えを述べなさい。（九〇〇字以内）

（東京交通短期大学）

*過料：義務違反に対して課される少額の金銭的な罰。

アプローチ1

順序を追って考える

例題が「条例」に対する賛否を問うているとしても、それに解答するためには、その前提として、「路上喫煙やポイ捨て」に対してどう考えるかを明らかにしなければなりません。もちろん、「好ましくないことだ」という意見が多くの人に受け入れられるでしょうが、やはり、「なぜ好ましくないのか」に、一言触れておく必要があります。

路上喫煙やポイ捨てが常態化すると、①その街に働き集う人々の日常生活を荒廃させるだけでなく、②犯罪の多発、③地域社会の衰退にもつながるか

らです。「安全で快適なまちづくり」の必要性が、路上喫煙やポイ捨てを禁止する根拠となっているのです。

アプローチ2

問われているのは「条例」への賛否

この例題で求められているのは、「路上喫煙やポイ捨て」の是非ではなく、「路上喫煙やポイ捨て」に対して最高二万円の過料を課す「条例」への賛否です。言い換えれば、「条例」による罰則で「ポイ捨て」を規制しようとすることに対する賛否です。ポイ捨てがよいか悪いかという問題と、条例に賛成か反対かという問題は、違う問題だと考えなくてはなりません。

ポイ捨ての是非と条例への賛否の態度を組み合わせると、「ポイ捨てをやめさせるのに反対」だが「条例に賛成」という態度は考えられないので、次の三つの態度が考えられます。

第一は、「ポイ捨てをやめさせるのに賛成」だから「条例に賛成」だという態度です。これは最もわかりやすく、多くの人に受け入れられやすい態度です。

第二は、「ポイ捨てをしてもよいと思う」から「条例に反対」だという態度です。これは、利己的かもしれませんが、論理的には一貫した態度です。

第三は、「ポイ捨てをやめさせるのには賛成」だが「条例には反対」するという態度です。この態度は、一見、矛盾するようですが、そうではありません。以下では、その関係を説明していきましょう。

アプローチ3

総論賛成、各論反対

この関係は、「総論賛成、各論反対」といわれます。つまり、趣旨目的（総論）には賛成だが、その具体的な方法（各論）については異論がある、ということなのです。したがって、各論部分の詳細な検討が必要であり、それだけ採点者から高く評価されることとなります。ですから、実は、この態度こそ、小論文の書き方の基本であると言っても言い過ぎではないのです。

例題にもどって説明すれば、「ポイ捨てをやめさせる」ということには、多くの人が賛成するでしょう。しかし、そのための方法は、いくつもあります。条例で規制する以外にも、本人の自発性に期待してやめるのを待つ、子どもに対しては家庭でのしつけ・大人に対しては成人教育によってやめさせる、地域の人たちが街をきれいにしつづらば環境をつくる、などさまざまなことが考えられます。

同じ目的を達成するための方法が複数あり、その効果が同じであるのであれば、できるだけ人々の自由を束縛しない方法によるのが好ましいわけですね。そのように考えたとき、公権力によって過料という罰を課するという条例による規制は、規制のレベルとしては、人々の自由を束縛する度合いが比較的強い規制であるといえるでしょう。したがって、「ポイ捨てをやめさせるのには賛成」だが「条例には反対」という立場を取ることは十分に可能です。逆に、「ポイ捨てをやめさせるのには賛成」だが、「最高二万円の過料」では目的を達成できそうもないから反対だ、という論理を展開することもできます。これは、もともと「重罰主義」で臨むべきだ、という考えです。

アプローチ4

賛成・反対の理由を考える

例題では、「理由を明確にして、あなたの考えを述べなさい」としていましたが、賛否の「理由」をしっかりと述べておくことが必要です。

その際に注意しなければならないのは、「路上喫煙やポイ捨てをやめさせるのに賛成だから、条例に賛成」という短絡的な展開や、「過料を徴収されるのがいやだから反対」「路上喫煙やポイ捨ては公德心に欠けるから賛成」という感情論に陥らないことです。感情論ではなく、条例によって規制することのメリット・デメリットを比較し、どちらが勝るかを検討することが必要です。

アプローチ5

メリット・デメリットを検討する

まず、メリットについては、条例という公権力によって規制することによって路上喫煙を急速に減らすことが期待できるといえることが挙げられます。

他方、デメリットとしては、①喫煙という私的行為を公権力によって規制することは権力行使の行き過ぎではないか、②路上喫煙を取り締まるために住民の間に相互監視の目が働き、監視社会になってしまう危険性があるのではないか、③過料さえ払えば路上喫煙が許されるという風潮がつけられて、かえって公共のマナーの形成がはばまれるのではないか、などが挙げられます。

ポイント整理

ポイント1

基本パターンは「意見↓反論↓再反論」

「ゴミの処理を有料化すべきか」「環境税を導入すべきか」「高校生に制服は必要か」など、賛成か反対かを問う出題は多くみられます。このような賛否を問う出題に答えるときの基本的なパターンは「意見↓反論↓再反論」です。これは、まず、自分の意見（賛否とその根拠）を述べ、次に自分の意見とは反対の立場から、最初に述べた自分の意見に反論し、最後に、反論に対してさらに反論を加えることで自分の意見を補強しながらまとめる、というパターンです。

たとえば、「高校生に制服は必要か」という問題を例にとって、「不要」の立場から考えてみましょう。

- 意見—— 高校生に制服は不要である。
- 理由—— ①私服のほうが自分らしさを表現できる。
②皆が同じ服装をする必要はない。
- 反論—— ①制服のほうが全校生徒の一体感を醸成できる。
②制服のほうが経済的である。
- 再反論—— ①高校生の段階では、一体感の醸成よりも個人の主体性の確立が必要である。
②「個性」という価値は、経済的価値に勝る。

このように、まず、全体の構成を確定していきましょう。次に、この書き

方で注意すべき箇所を、細かく見ていきましょう。

ポイント2

「意見」を明確に決めよう

まず、第一に重要なのは、提示された問題に対して「賛成」なのか「反対」なのか、意見を明確に決定することです。たしかに、私たちの身の回りには、単純に賛成か反対かで割り切れる問題よりも、もっと複雑な問題のほうが多くみられます。しかし、設問で、賛否が問われている場合には、「どちらでもよい」と判断を保留したり、「時と場合によって判断すべきだ」というどっちつかずの意見を述べたりしてはいけません。また、賛否が割り切れる問題のほうが、受験生にとっては、答案を書きやすいのも事実です。

たとえば、先の例であれば、「高校生に制服は必要である」「不要である」とはつきりと述べることが必要です。「式典のときだけ着ればよい」というような意見は、基本的賛否がはつきりしないため、好ましくありません。意見を書いたら、あとは、その裏づけ、すなわち「根拠」を示していけばよいのです。

ポイント3

「意見」よりも「根拠」が重要

次に大切なのは、意見を根拠で補強することです。根拠という「裏づけ」をもたない意見は、説得力に乏しいからです。

また、賛否を問う出題では、「意見」は「賛成である」「反対である」と一言で終わってしまいます。ですから、採点する側は、「なぜ賛成なのか」「なぜ反対なのか」という根拠の部分がどれだけきちんと書けているかに力点を

置いて見ることになります。その意味でも、説得力のある根拠をしっかりと書くことが重要です。

ポイント4

自分の意見に対する反論を予想する

第三に、自分の意見に対する「反論」を述べておくことが大切になります。「反論」を述べておくことで、意見が一方的にならず、複眼的なものを見る能力があることを示すことができます。

しかし、このようにいうと、「自分の意見と違う意見は書きにくい」といわれそうですが、実はそうでもないのです。

それは、賛成の根拠と反対の根拠は、表裏の関係になっているからです。たとえば、先ほどの例でいえば、制服が全校生徒の一体感を醸成し、愛校心を育てるのに役立つという**賛成論の根拠は、裏返せば、生徒一人ひとりの個性や主体性を弱めてしまう、という反対論の根拠にもなります。**上の表では、賛成の根拠と反対の根拠を三つずつ挙げてありますが、それぞれの根拠が表裏の関係になっていることがわかると思います。同じ現象を、

どちらの視点から眺めるかで、その位置づけがまったく変わってきてしまうわけです。もちろん、反対の根拠は、賛成の根拠を裏返したもののばかりではありません。

しかし、それは、「結局、どっちでもいい」ということではありません。視点によって位置づけが変わるのであれば、書き手がどのような視点をもつかが重要になります。したがって、皆さん一人ひとりが、しっかりと、自分自身の「ものの見方」をもっていることが大切なのです。

賛成の根拠	反対の根拠
1. 一体感を醸成	1. 個性をそこなう
2. 愛校心につながる	2. 主体性を弱める
3. 経済的である	3. 個性は経済に勝る

ポイント5

反論と再反論を対応させる

第四に、再反論の部分では、反論と再反論を対応させることが重要です。再反論の部分は、その前に示した反論を論破することによって、最初に示した意見が間違っていないことを確認する部分です。したがって、反論と再反論が対応していないと、この部分で反論を論破することができず、逆に、論理的に首尾一貫していないと判断されてしまいます。

ポイント6

再反論は視点を変えて

反論と再反論とを対応させるといっても、再反論が最初に示した根拠の繰返しでは、議論は堂々巡りするばかりで、結論には至りません。再反論の部分では、ワンランク上の議論で反論を論破することが重要です。

つまり、最初に述べた主張を繰り返すのではなくて、視点を変えて再反論するということです。

たとえば、「制服」の例で反対論に立って議論を展開する場合でいえば、個性をそこなう、主体性を弱める、という冒頭の反対論の根拠ではなくて、個性や主体性がなぜ重要なのかという視点から、一体感を醸成する、愛校心を高める、という賛成論の根拠を批判するようにするわけです。

添削課題 2-①

「高校生に制服は必要か」について、必要・不要のどちらかの立場に立って、あなたの考えを述べなさい。(四〇〇字以内)

第2部 基礎編

⑧ 要約と自由論述の問題を書く

●この課のねらい●

- 課題文を要約し、自由に論述するパターンを学習する
- 要約を踏まえた論述のしかたを学習する

例題

2—⑧

次の文章を読んで、内容を1000字以内で要約し、感想を3000字以内で述べなさい。

課題文

○語注○

ハンセン病：らい菌によって引き起こされる重い皮膚病。従来、伝染病・遺伝病であるとの偏見から、療養施設への強制隔離や断種手術が行われていた。

内なる差別や偏見：人々が普段は強く意識していないが、意識の内部に潜んでいる差別や偏見。

課題文

アプローチ1

課題文のメモをつくる

黒川温泉で国立ハンセン病療養所の元患者が宿泊拒否された問題

ホテル側「元患者であることをひた隠ししていた県に責任がある」県に責任転嫁

筆者「社会に今なお残る偏見、差別をどうなくすかという重い問いを突き付けられた・企業としての倫理観を疑う

菊池恵楓園の入所者「暗い隔離地帯を思い起こしたくない」

詩人・大城貞俊氏「この病で糾弾されるべきは国家権力だけでなく、私たちの内なる差別や偏見である」

筆者の結論「差別・偏見の根深さは抜きがたい、社会全体が原点に戻って考えるべきだ」

アプローチ2

字数に合わせてポイントをしぼる

(沖縄キリスト教大学)

要約は、一〇〇字という短い指定字数なので、重要な点を落とさないように注意します。課題文では、**発生した事実**（黒川温泉でのハンセン病の元患者に対する宿泊拒否事件）について**考察**（差別や偏見が社会にいまなお根深く残っていることを私たちに突き付けたこと、これについて糾弾されるべきは、国家や企業だけでなく、私たちの内なる差別や偏見であること）を加え、**結論**（社会全体が原点に戻って考えるべきだ）に導いています。事実・考察・結論の三つのポイントを落とさないように、字数内で要約しましょう。

アプローチ3

筆者の一步先を述べて、論述に差をつける

課題文の筆者は、差別や偏見をなくすことが必要であるということを暗黙の了解として、そのためには社会全体で考えることが必要だと結論づけています。したがって、論述では、差別や偏見をなくすためにどうしたらよいか、という方向で結論に向かうこととなります。その際、自分が述べる意見と、私たち自身の中に根深く残っている差別や偏見について、私たち自身が考えなければならぬ、という筆者の主張とが合致していることが大切です。自分や周りの家族、友人について、差別や偏見がないかどうか、あるとしたらそれはなぜか、どういうときに差別や偏見が表面化するか、といったことを具体的に考えてメモし、自分なりの体験や具体例に即した解決への模索が示せると、よい小論文になります。

ポイント整理

ポイント1

要約を踏まえた感想を書く

本課では、与えられた課題文を要約し、そして自由に論述するというパターンについて学習します。課題文自体は短く、要約・論述ともに比較的短い字数指定があります。

要約については、すでに第一二課で学習しました。重要なことは課題文のテーマと起承転結を正確に把握し、キーワードをきちんと押さえてまとめていくことでした。

今回はこの要約を受けて、自由に論述するという設問です。「自由に」とはいっても、小論文であることを忘れてはなりません。自分の好き勝手な感想を述べてしまい、肝心の課題文のテーマやそこで筆者の主張と焦点のあわない内容になってしまえば、採点の対象からはずれてしまいます。あくまで、課題文のテーマと主張について言及すること、つまり要約でまとめた論点に焦点をあてて、自分の論述をすることがポイントです。

ポイント2

指定字数が短い要約では筆者の主張をまず押さえる

課題文要約では、テーマと論の起承転結、そして筆者の主張という三点セツトをメモ書きして、ここから字数にあわせて必要なポイントを拾っていきます。字数が短いときは、とくに、最も肝心な筆者の主張をはじめに押さえ、次にそれを説明するうえで必要なポイントを拾い、筋道よくまとめる、とい

う手順を踏むことが大切です。

筆者の主張が書かれている箇所には、「……と考える（考えたい）」「……と思う」「私は（私たちは）……だ」というような表現が多く使われることも覚えておきましょう。

ポイント3

課題文の重点メモから要約に書くポイントを拾う

課題文を読んで、大きな意味段落に分け、それぞれの段落の中心となる内容を簡条書きのメモにします。それをつくれば、課題文の全体の流れが明確になります。筆者の主張が、どういう根拠や具体的な事例に基づいて述べられているか、という点にとくに注意して課題文を読み取ります。筆者の主張だけを書いても要約としては不十分です。自分が、どのようにして課題文を読み、筆者の主張をとらえたのか、その筋道がわかるような要約文を書くことを心がけましょう。

ポイント4

自由論述は要約と関連させる

「……についてあなたの意見を述べなさい」など、論述のテーマが指定されている場合は、そのテーマが論点となるように論述します。「自由に述べなさい」など、とくに論点の指定がされず、課題文全体についての意見・考えを求められた場合は、自分の論が課題文の最も中心的内容や筆者の主張とずれてしまわないように注意することが大切です。ずれないようにするためには、要約文と関連づけて、あらかじめどの段落でどのようなことを述べたかのメモをつくったうえで進めていくとよいでしょう。

ポイント5

背景・現象・問題点・解決のパターンで考える

要約文でまとめた筆者の主張とその根拠について、自分はどうか考えるのか。これが定まらないと論述の論点が見つからないということになります。

しかしこれは、当然、日ごろの自分の問題意識や情報収集力があるというところからです。いろいろなテーマで出題される小論文の課題について、またそこで展開される筆者の主張について、何がテーマとなっていて、それは一般にどのような背景で、どのような現象のことか、どのような問題をもっているか、解決にはどういうことが必要と考えられるか、というような基本的な知識や情報がある程度は必要となります。課題文は、一般的に、今の社会で問題となっていること、何らかの解決に向けた動きを必要としていることといったテーマで書かれていると考えられます。したがって、背景・現象・問題点（ここまでは分析の範囲）を挙げ、それについて考察して解決への道を探る、という流れをパターンとして考えれば、うまく筋道が通ります。いつもこのパターンで読んだり考えたりする習慣を身につけましょう。

ポイント6

自分の考えとその根拠・具体例を決める

テーマとなっている問題についての筆者の考えは要約文でまとめました。

そして、**ポイント5**の段階で、自分の情報・知識をまとめました。この両方を材料にして、自分の考えを絞ります。

まず、単純に筆者の考えに賛同するか、あるいは反対の立場をとるか、というところから出発しますが、どちらの立場で述べる場合も、根拠や具体例を示せるかどうかを検討してから立場を決定することが大切です。一般的に

論に流れたり、世間で一般的にいわれる教訓的な言葉を並べたりするだけでは、得点力のある小論文にはなりません。自分の経験や周囲でみられる具体例など、根拠に説得力をもたせて書くために、自分の主張とそれを支える根拠・具体例を決めましょう。

ポイント7

どう書けば説得力のある小論文になるかを考える

他のパターンの場合と同じく、書き始める前に、起承転結をメモにする作業をすることは、欠かせません。初めに結論を示して根拠・具体例を述べる中で筆者の主張に触れ、もう一度自分の結論を示すという書き方、また、初めに筆者の主張を確認し、これについて考察を加える中で自分の考えを示し、最後に自分の結論を述べるといった書き方など、書き方のパターンはいくつかあります。メモをつくる段階で効果的なパターンを考えてみましょう。小論文の学習では、このような学習が大切です。同じことを書くのにも、いろいろ自分なりの工夫をしながらいくつかのパターンで書く練習を繰り返しておくと、本番でも効果的なパターンを選択して書けるようになります。読み手に自分の考えをいかに納得させるか、小論文の成否はここにかかっているのです。

添削課題 2-⑧

「例題」の課題文の中の「私たちの内なる差別や偏見」という言葉について、思うところを述べなさい。（四〇〇字以内）

第3部 入試実践編

① グローバリゼーションと異文化理解*

《過去問》 3—①

私たちは異文化を楽しみますが、一方で文化背景の異なる人間同士のコミュニケーション*
ンは難しいともいわれます。このことについて、あなたの考えを述べなさい。(八〇〇字以内)

(山梨英和大学)

○語注○

グローバリゼーション：世界規模での
経済の一体化。

異文化：自分の属する文化圏を基準に
して、その他の言語・生活・思考・
制度などを指していう言葉。言語・
生活・思考・制度など各地域によっ
て文化のあり方は変化する。

コミュニケーション：人間同士の理解
のあり方のこと。言語的理解と非言
語的な理解の方法がある。

《コメント》 文化とはなにか。コミュニケーションとはなにか。

設問を単純に言い換えれば「異文化コミュニケーションの難しさ」ということになります。異文化コミュニケーションといわれると、我々が思い浮かべるのは外国人との会話、すなわち異なる母語を有した人間同士の会話でしょう。日本人がイギリス人と英語で会話をすれば、それは異文化コミュニケーションとなります。異なる価値観やライフスタイルを有した人間と、自分の母語以外の言語でコミュニケーションを行っているからです。

ここでいう異文化コミュニケーションの難しさとは、コミュニケーションを支える言語の問題と、それぞれの会話者が有している衣食住のスタイルや価値観に起因するというのが一般的理解でしょう。そこで行われている言語も価値観もどちらも文化ですが、設問における「文化背景」がどちらを意味するかによって議論の内容は違ってきます。その違いを無視して「文化」という語でひとくくりにして議論を進めると、文章の部分部分で「文化」という語の意味するものが微妙にずれ、わかりにくい文章になるおそれがあります。自分がどのような意味で「文化背景」を理解しているのかを限定しておくことは、わかりやすい文章を書くためにも大事な作業です。

これはコミュニケーションについても同様です。コミュニケーションとは情報の伝達でもあり、相手のいいたことを理解することでもあり、相手を説得することでもあります。コミュニケーションが情報の伝達を指しているのか、それとも自分の考え方や感じ方を相手に共感してもらうことを指しているのかによって議論の内容は大きく異なってきます。

ですから、実際に小論文を書く際には、「文化背景の異なる人間同士のコミュニケーションの難しさは、自分とは異なる価値観やライフスタイルを有した人間にはなかなか自分の考え方や感じ方を理解してもらえず、場合によっては批判されてしまうことさえあるという事態にあらわれている」や、「異文化コミュニケーションが難しいのは、外国語ではうまく自分の意見を伝えることができず、意思疎通が図れないからだ」などと、定義・限定を加えてから小論文を書くようにするとよいでしょう。

● こう考えよう ●

1 定義・限定から始める

今回は「文化背景の異なる人間同士のコミュニケーションの難しさ」について意見を述べよというシンプルな問題です。このような場合、まずは「文化背景の異なる」ことや「コミュニケーション」ということがどのような状況や行為を指しているのかを考えることが大事です。つまり、それらの言葉が意味するところを自分なりに定義・限定することによって、論じるべき問題も明らかになります。この作業をしないと、「文化背景が異なれば意見や主張が異なるのは当然だから、コミュニケーションにおいては相手の文化をできるだけ尊重し、相手を理解しようとするのが大事である」というような紋切り型で終わる可能性もあります。抽象的で情報量の少ない設問に対してはまず、自分なりに定義を加えて問題設定を具体的にすることが重要です。

● 論点 ●

1 コミュニケーションが問題となるとき

コミュニケーションが問題となるのは、自分（相手）の言いたいことが相手（自分）に伝わらなかったり、理解されなかったりするからなのです。

このとき、会話者に身体的な障害がある、言いたいことがうまくまとめられない、会話者同士の母語が異なるなど、さまざまな原因を考えることができます。ただし、これらの例の場合、情報が正確に伝われば問題は解決します。一方で自分の言いたいことが情報として伝わったとしても、相手に理解されなかったり批判されたりすることもコミュニケーションの問題となります。その原因としては会話者の信念やライフスタイルなど、広くいえ

ば価値観が異なるということが考えられます。一般には言語や価値観の違いに起因するコミュニケーションの難しさがそのまま異文化コミュニケーションの難しさとして理解されています。

2 言葉の違いと価値観の違いだけが問題ではない

しかし情報がきちんと伝わり、相手が自分と同じ価値観を有しているだけでコミュニケーションができるわけではありません。情報として伝わったとしても、その言葉の意味は簡単に決定できません。たとえば「君はオオカミだ」と言われたとき、その表現からだけでは、どのような意味なのか判断できません。「残酷」なのか、「孤独」なのか、外見がオオカミに似ているのか。発言の意味は言語そのものだけではなく、会話者同士の状態や会話者が属している状況にも大きく左右されます。たとえば男性が女性に「とてもきれいだよ」と言ったとき、女性が「やめてよ」と返す。このような場合、もし男女がカップルだったなら女性の「やめてよ」は「黙れ」ではなく、「うれい」という意味かもしれません。けれども二人が喧嘩中だったなら、本当に「黙れ」という意味なのかもしれません。

以上からもわかるように、発言の意味は、情報が伝われば即座に明らかになるものではありません。発言の意味は言葉によってのみ決定されるのではなく、質問を繰り返していくうちに明らかにになり、会話者同士の関係、発言者の性格、顔の表情、身振りなどさまざまな要因（非言語情報）によって決まるのです。実際に我々は日常生活においてこのような作業を行いながら意味を把握しています。「以心伝心」という言葉がありますが、これはこのような非言語的な情報から相手の言いたいことを理解するという、非常に近い人間の間でのみ可能なコミュニケーションだといえましょう。そこでは仲のよい人間同士が属する「文化」が存在し、そこには非言語情報を解読する共通の規則が存在しているのです。

3 失敗するものとしてのコミュニケーション

さて、このように考えると、文化背景の異なる人間同士のコミュニケーションというのは困難な行為です。情報を正しく伝え、それを正しく理解させ、相手に自分の意見を納得させるのは簡単な作業ではありません。ただし、それは同じ文化に属していれば問題なくコミュニケーションできるという見方の裏返しです。実際のところ、日本語におけるコミュニケーションにおいても非言語情報による意味の理解に失敗することは日常茶飯事ですし、友人同士でも価値観やものの見方が異なるということはあたりまえです。そのような問題は失敗や対立を経験しながらも、質問をしたり、会話を重ねたりしていくうちに次第に解消されるのです。日常において行われていることを、異文化コミュニケーションでできないはずはありません。

4 非言語情報によるサポート

たしかに言語はある程度話せないと、コミュニケーションを行うことができません。そのようなときに助けになるのが先述した非言語情報です。非言語情報はボディランゲージと言われるように普遍的な側面も有しています。つまり非言語情報は、言語によるコミュニケーションをサポートする役割ももっているのです。たとえば外国語を完璧に話せないと、いくつかの身振りを交えながら相手に自分の言いたいことを伝えることはできるはずですが、自分が困っていれば、その様子は相手にも伝わるでしょうし、それがわかっている相手も多少表現がおぼつかなくても親身になって理解しようとしてくれるでしょう。ボディランゲージを用いることで意思疎通の可能性はかなり高まるのです。

5 グローバリゼーションにおける異文化コミュニケーション

異文化コミュニケーションというとき、言語による情報の伝達不可能性と、価値観の対立による理解不可能性を問題を考える傾向があります。しかし、コミュニケーションを言語によるものと限定せずに、非言語情報による伝達も視野に入れることで、その重々しさは多少なりとも解消されるでしょう。グローバリゼーションが進む現代社会において、異文化コミュニケーションは珍しいことではありません。そのような状況において困難さや不可能性がかりを言い立てるのは意味がありません。

相手の文化を理解することが重要だといっても、コミュニケーションをせずに相手の文化を理解することはできないはずですが、相手の国の歴史や文化について書かれた書物をいくら読んでも、今実際に話している個人が有している文化について明らかになるわけではありません。生きた文化とは生身の人間を通じてしか理解できず、問題は目の前の人間がどのような価値観や信条をもっているかなのです。それはコミュニケーションを通じて次第に明らかにしていくほかないものなのです。

キーワード

グローバリゼーション……経済の世界規模での一体化の進行とともに、資本・人・技術などが国境を越えて移動する状態。

添削課題

3-1

グローバル化が進む中で英語が世界共通語としての地位を確立している。この動きに連動して小学校から英語教育が取り入れられている。これについてあなたの意見を述べなさい。(1000字以内)

第5部 挑戦課題編

⑦ 日本の福祉には何が必要か

添削課題 5—⑦

この文章には、福祉先進国であるスウェーデンに訪問した筆者の体験談が述べられています。この文章を読んで、今後の日本の福祉には何が必要だと考えますか。あなたの意見を八〇〇字以内で述べなさい。

課題文

課題文

課題文

Copyright © All Rights Reserved. 2014

高校ゼミ
Essence

小論文

解答編



第1部 導入編

添削課題 1—① (p.7)

家庭から排出されるゴミの収集を有料化する¹⁰ことに、私は賛成である。
 なぜなら、有料化することは、環境に対する住民の意識を高めると同時に、排出されるゴミの量の削減につながると考えるからだ。
 ゴミを出すことが、自分たちに経済的負担となつて跳ね返つてくるならば、できるだけゴミを出さないように努めるであろう。その結果として、出されるゴミの量の減少が期待される。
 たとえば、包装紙やペットボトルは、使い終わればすぐゴミになつてしまふ。しかし、ゴミ収集が有料化されれば、過剰包装を断る人や水筒をもち歩く人が増える。また、その過程で、原料である森林資源や石油資源のことを考えるようになる。つまり、ゴミが環境に与える負担についても考えるようになる。
 一人ひとりの意識を高めることが、環境問題解決の要である。そのためにはゴミの収集の有料化が有効な手段であると考ええる。

20

10

添削課題 1—② (p.11)

高齢者が要介護状態に至るのを予防するため、「介護予防制度」が二〇〇六年四月から実施された。これにともなつて、これまで介護保険サービスを利用していた人が、サービスを¹⁰利用できなくなるといふ事態が起きた。
 だが、そのようなことが一時的に起こるのはしかたがない。なぜなら、高齢者が元気に生活でき、介護保険を利用しなくてもすむようにすることは、財源の破綻を防ぐためにも重要であると考えるからである。

10

●解答のポイント

添削課題 1—①

まずは、意見を明確に示すこと、その理由をしつかりと述べることが求められます。段落構成は、「意見」↓「理由(なぜなら……)」↓「説明」↓「例示(たとえば……)」↓「まとめの意見」という形でまとめます。

内容的には、①市民の環境に対する意識の向上、②ゴミの量の削減、という二つの観点から考察しています。

なお、家庭ゴミの有料化については、税を払うのとは別に有料化するのは、住民に二重の負担を強いるものであるという批判もあります。

添削課題 1—②

一文を短く切る、話し言葉を書き言葉に改める、事実と意見を書き分けるといった点に留意しつつ作業を進めます。「高齢」の「齢」は俗に「令」とも書きますが、「齢」と書くのが正しい書き方です。「保険」と「保健」は意味の違う言葉です。

数字は漢数字で書きます。

添削課題 1—③ (p.15)

私は、自治体は小さな自治体が多くあるほうがよいと考える。
 なぜなら、生活圏を離れて、自治は成り立たないと考えるからである。自治とは、自分たちの身の回りの課題を自分たちで解決するシステムである。そのためには、行政が市民生活からかけ離れたものになってしまつてはならない。一〇の市町村が合併して成立した岐阜県高山市は、東京都より広くなつた。しかし、そのような自治体で、市民によりそつた行政ができるのか疑問である。
 他方、合併による経済的メリットがあるのも確かである。高齢化が進行して税収が先細りになる中で自治体が破産するといった事態も起こつている。そのような状況をふまえて合併によつて財政規模を大きくして行政サービスを提供し、小さな自治体が別々に行つていた事務を一元化して、行政の効率化と経費の削減を目指すという戦略はよく理解できる。
 だが、事務の進め方は、目的を達成するための手段に過ぎない。市民生活に根ざした行政を行うという自治体本来の存在意義を考えたとき、自治体と市民との間の距離は、できるだけ近いほうがよいと考える。

添削課題 1—④ (p.19)

私が大学生生活で実現したいのは、社会教育に関する勉強をして、社会教育主事の任用資格を取得することである。
 社会教育とは、勤労の場その他社会における、もつぱら成人による学習活動であり、そのための施設として公民館や図書館、博物館、美術館などがある。社会教育の専門職として、住民の学習活動の手助けをするのが社会教育主事であり、市町村の職員として働いている。
 私が、社会教育の仕事をしたいと思うのは、それが成人の学習活動だからである。成人はこの社会における責任をもつたメンバーであり、その意識のもちようが社会のあり方を決める。また、多くの成人は子どもと親として、未来社会の担い手を育てる立場にある。
 自らが社会の成人の一員となるだけではなく、私たちの生活を取り巻く社会的な問題を積極的に取りあげ、問題意識をもつた多くの人々と学習を進める能力を大学生生活の中でつちかつていきたいからである。

●解答のポイント

添削課題 1—③

最初に「小さな自治体が多くあるほうがよい」と意見を明確に述べて、最後にそれと同趣旨のことを「自治体と市民との間の距離は、できるだけ近いほうがよい」という表現で述べています。

「意見」↓「なぜなら……」
 ↓「他方……」という構成は、起承転結の四段落構成と同じです。

添削課題 1—④

大学では、深い教養と幅広い知識を身につけるといふ考え方もありますが、小論文としては、具体的な目標を示したほうが書きやすいでしょう。読む人が必ずしもその分野の専門家とは限りませんので、資格などの固有名詞を示す場合にはそれがどういふものかを説明することが必要です。なぜ、それをしたのかという「動機」をきちんと示せるかが、説得力を大きく左右します。ですから、なるべく具体的に書くのがよいでしょう。

例題

2—⑧ (p. 54)

【要約】

黒川温泉で元ハンセン病患者が宿泊拒否された事件は、日本社会に残る差別や偏見を浮き彫りにした。非難されるべきは国家や企業のみならず、私たち自身でもあるのだ。社会全体が原点に戻って考えるべき問題である。

【感想】

筆者が述べるようにいまだに日本の社会にはいろいろな差別や偏見が存在している。日本では近年、外国籍の人が増えている。とくに理由は説明できないが、私の中には外国籍の人に対する心の垣根があり、あらかじめ外国籍の人であることがわかっていると、話しかけることさえおっくうに思うことがある。その一方で私には外国籍の友人も数人いる。学級という場の中では、私と気の合う人が友人になったというだけで、外国籍であるかどうかはまったく関係のないことであった。つまり、一個人として向き合えば、そこには差別や偏見は存在しなくなる。そのことから、お互いをまずよく知ることが、差別や偏見をなくすための第一歩であると考ええる。

添削課題

2—⑧ (p. 57)

「私たちの内なる差別や偏見」という表現には、私たち自身が定かに気づいていない差別や偏見が心の奥底にあるということを示している。ハンセン病の裁判においては、国の違法が確認されたが、これによって社会における「差別や偏見」がただちに解消されたわけではない。

ホテルの宿泊拒否の問題の裏側には、元患者の宿泊によって全体の宿泊客が減少するかもしれないというホテル側の恐れがひそんである。その恐れを当然のこととするのであれば、それはすなわち自分自身の中に「差別や偏見」があることにほかならない。「私たちの内なる差別や偏見」というとき、私たちが抱く「差別や偏見」の存在をまず認め、「差別や偏見」にさらされる側の立場で考えることの必要性を主張しているように思える。「差別や偏見」を抱く側の問題として考えているうちは、決して「差別や偏見」にさらされる側の痛みはわからないのである。

例題 2—⑧

キーワードになるのは、課題文の中の「私たちの内なる差別や偏見」という言葉です。ここでの「内なる」とは、「心の内に感覚的に根付いた」ともいえるべき意味です。

ハンセン病患者に対する隔離政策については、二〇〇一年五月一日に熊本地方裁判所が、ハンセン病に隔離の必要のないことはわかっているから隔離を認める法律を廃止しなかつた国の立法不作為を違法と認定する判決を出し、確定しました。

しかし、社会から差別意識がまったくなくなつたわけではありません。法や制度としてよりも、人々の意識の問題に焦点をあてて考えることが必要です。

添削課題 2—⑧

ここでも、制度の問題ではなく、意識の問題に焦点をあてる必要があります。差別意識をなくすためにどうしたらよいかを述べられるとよいでしょう。

文化背景の異なる人間同士のコミュニケーション¹⁰のコミュニケーションにおいて一般に問題とされるのは、コミュニケーションを支える媒体としての言語のの違いと、それぞれの人間が有しているライフスタイルや価値観の違いである。言葉が通じなければ意思の疎通を図ることはできないし、たとえ言葉が通じても自分の言いたいことが相手に受け入れられず、非常識として批判されればコミュニケーションが成功したとはいえないからだ。ただしこのような異文化コミュニケーションの難しさを指摘する主張の背景には、コミュニケーションは潤滑に行われるべきで、失敗は許されないという完璧主義的な態度がある。なぜならそこには質問をしたり、ボディランゲージを用いたり、長い時間会話を重ねることでギャップを埋めていくという発想が見られないからである。

だが、われわれは日本人同士の会話では当たり前のようにそのような作業を行っている。日本人の間でもライフスタイルや価値観の違いは存在するし、コミュニケーションの失敗は日常茶飯事である。友人や恋人の真意が理解できないこともあれば、両親の価値観に反

発を覚えることもある。それでも質問をしたり、相手の表情や身振りから推測したりすることで相手の言いたいことを理解しようとするのである。だから、実は外国人とのコミュニケーションと基本的に変わるところがない。むしろ、グローバル化が進み異文化コミュニケーションが珍しくない現代社会で、そのような完璧主義は無用な足かせとなる。日本人がネイティブのように英語を話すことは難しいし、それを要求されているわけではない。また、相手の文化や価値観を尊重するとしても、それはコミュニケーションを通じて明らかになるものでしかない。それゆえ、質問をしたり、身振り手振りを使ったりしながら、自分のできる範囲で積極的にコミュニケーションを行うていくことが大事である。

《過去問》 3—①
異文化コミュニケーションの難しさがテーマです。「難しさ」について、具体例を挙げながら書きます。しかし、ただ、「難しい」というだけでなく、その実現に向けた可能性にも言及するとよいでしょう。

英語を小学校のうちから学習させることに
 は、英語でコミュニケーションができる日本
 人を育成するという目的がある。中学校以降
 の英語教育では文法や読解の学習に重点が置
 かれるため、小学校のうちから会話重視の英
 語教育を行おうというのだ。それは日本人が
 ネイティブと対等に意思疎通を図るために有
 効な手段と考えられており、英語が国際語と
 しての地位を確立しつつある現在、そのよう
 な発想が生まれることは無理もない。
 しかし、小学校から英語を学習したとして
 も、自動的に英語で高度なコミュニケーション
 ができるようにはならないことに注意する
 べきだ。自分の思考内容や感情のニュアンス
 を英語で相手に正確に伝え、相手の発言を理
 解するのに必要なのは論理的な思考力と英語
 の文法知識や読解力である。それは英作文や
 翻訳の能力に近く、発音や日常会話の無意識
 的な繰り返しによって得られるものではない。
 日本人が高度な英語の能力を得るためには意
 識的な努力が必要なのだ。
 逆にいえば、小学校から会話重視の英語学
 習を始めることにはそのような努力にともな
 う苦痛を軽減する目的もあるのだらう。だが、
 それは文法や読解の軽視へと結びつき、その

結果、得られるのは中身の無い日常会話を流
 暢に行う能力だけということになりかねない。
 それにもかかわらず小学校から英語教育を行
 っているのは、コストがかかり、馬鹿げてい
 る。流暢さを望まなければ、中学校以降の英
 語教育でもある程度の会話能力は得られるし、
 困ったときには身振り手振りを交えれば話は
 何とか通じる。実際、グローバル化が進んで
 も、多くの日本人にとって必要な英語能力は
 工夫次第でどうにかなる程度のものである。
 また、英語が国際語であるということは、
 英語がもはやアメリカ人やイギリス人だけの
 ものではなく、絶対的な英語が存在しないと
 いうことである。かつて国際語であったラテ
 ン語は地域によって発音や文法がバラバラで
 あったというし、今でもシンガポール人やイ
 ンド人の英語は独特のものである。それゆえ
 ネイティブと対等の英語力を習得するため
 小学校から英語を教えるというのは、実は英
 語の国際語化の意義を見誤った発想だといえ
 る。流暢な英語を話さなければならぬとい
 うのは一種の強迫観念なのだ。むしろそのよ
 うな発想を離れ、英語でのコミュニケーション
 が成立するよう工夫する態度こそが国際語
 としての英語学習に必要なのである。

● 解答のポイント

添削課題 3 — ①

「グローバル化の時代には英語は絶対に必要だ」などと
 いう単純な英語教育礼賛論に
 ならないようにします。

小論文では「問題」を見つ
 けるのが基本です。どうして
 そんなことが起こるのか、ど
 ういう仕組みになっているの
 か、どうしたらいいのか、と
 いうように続けることができ
 るからです。

この場合なら、「英語」「早
 期教育」の二つのことがらを
 問題にし、「英語」の力とは
 何か、どういう教育方法を取
 れば効率的に習得できるのか
 について考察します。英語の
 力とは結局言語運用能力です
 から、その能力がまだ発達途
 上である小学生に負担を多く
 することは正しいのかという
 疑問も出てくるでしょう。

さらに、何のためにどんな
 英語を教えるかも問題です。
 ここでは、流暢であることに
 重きを置くことを疑問視して
 反対の根拠としています。

「高校ゼミEssence小論文」では課題の添削(有料)を受けることができます。

「導入編」 5講座

「基礎編」 10講座

「入試実践編」 9講座

「志望理由書の書き方編」 1講座

「挑戦課題編」 8講座

全ての講座に添削(有料)に対応する**添削課題**がっています。

・添削サービスについて

添削課題のアイコンがついている問題は添削サービス(有料)が受けられます。

詳しくはURL：<http://ckt-hanbai.co.jp/tensakukouza-guide/>よりご確認ください。

左のQRコードからもご確認ください。

※お申込みは塾・教室単位となります。個人でのお申し込みは受け付けておりません。

